

令和3年度第2回 里庄町総合教育会議 議事録

1 日 時 令和4年2月22日(火)〈開会9時00分、閉会9時40分〉

2 場 所 里庄町役場本庁舎2階 第2会議室

3 出席者 町 長 加藤 泰久
教育長 杉本 秀樹
教育委員 三吉 俊郎 堀 朝子
藤井 幸治 小野 愛
オブザーバー 内田副町長 小寺教育委員会事務局長
淡路教育委員会参事 天野事務局長補佐
事務局 赤木総務課長 佐藤総務課主事

4 議事にかかる出席者の発言

(1) 里庄3シヨンプログラムの現状について(議事進行:町長)

【加藤町長】

里庄3シヨンプログラムの現状について、教育委員会から説明をお願いしたい。

【天野事務局補佐】

里庄3シヨンプログラムの現状について、説明をさせていただく。

今年度の取り組みの様子として、小中学校においてプレゼンテーション、ディスカッション、リフレクションの3つの取り組み、先生及び児童・生徒にどのような変化があったのかを説明する。まず、児童・生徒の変化について、友達との関係性が大きく変化しており、自他を認め合う力がついてきており、自ら行おうとする素直な気持ちの向上もみられてきている。また、先生側の変化として、子どもたちの非認知能力を伸ばすためには、力がついた瞬間を子どもたちに気づかせてあげることが非常に重要であり、継続して実施する必要があると考えている。これらの取り組みで、子ども自身に力が身につき、先生方の指導力向上にも繋がると考えている。最後に、次年度に向けて、取り組み内容を量から質へ発展をさせていくことが必要になる。

【加藤町長】

説明があったことについて各委員から意見等があればお願いしたい。

【堀委員】

自分の意見を言えない若しくは言いたくない児童・生徒の居場所づくりや、少しの進歩を認めてあげるといった雰囲気づくりが非常に重要ではないかと考える。

【天野事務局補佐】

各学年、各クラスが前向きな雰囲気づくりをすれば、安心感を与えることができるのではないかと考える。また、苦しさ等に負けない力も身につけることも重要になる。

【小野委員】

懇談等で、授業中の態度のみでなく、休み時間の様子等も伝えてくれ、先生方が子どもをよく見てくれていると感じている。

【藤井委員】

非認知能力は、社会に出てからも重要な力になる。

【三吉先生】

リフレクションとして小学校では、先生や保護者が日記に対しコメントをしているが、中学校での取り組みはどうか。

【天野事務局補佐】

すべてに対しては、現状難しいと感じている。また、先生方の余力によって差がでている。重要なことについては、コメントを残せるよう先生方にはお願いをしている。

【杉本教育長】

子どもの少しの成長を認め続けていくことが、3シヨンプログラムだと考えている。

(2) 長期欠席・不登校の現状と対応について（議事進行：町長）

【加藤町長】

長期欠席・不登校の現状と対応について、教育委員会から説明をお願いしたい。

【天野事務局補佐】

本日は、今年度の長期欠席・不登校の現状と対応について説明をさせていただく。

長期欠席・不登校の傾向として、小学校でこの状態になった子どもは中学校でも改善が難しい。こういった現状を踏まえ、休み始めてから3日の間に対応を行うことが重要になる。学校の対応として、家庭への連絡、家庭訪問を行い、学校への登校を促しているところである。また、学校だけでの対応が難しい場合は、ソーシャルワーカーやスクールカウンセラーなどの関係機関と連携を行い、子どもや家庭を支援している。

【三吉委員】

学校での生活は、家庭で過ごす時間より多くなるので、先生方の対応が重要になる。

【藤井委員】

小中学校で長期欠席・不登校になった子どもは、高校になったときは改善されているのか。

【天野事務局補佐】

すべては把握していないが、進学先の学校を辞めてしまうといった情報もある。

【小野委員】

小中学校の短時間通学の子どもは、通学時に勉強をしているのか。

【天野事務局補佐】

子どもの状況によるが、勉強や体育館で運動を行っている。

【堀委員】

私自身の経験として、休み始めの原因究明を早期に行うことが重要でないかと考える。

【天野事務局補佐】

学校も長期欠席になると、意識が薄れだすということもあるが、継続的な家庭訪問等を実施しており、細く長い対応を行っているところである。

【杉本教育長】

長期欠席の休み始めの原因を究明することができれば一番良いが、実際これが非常に難しい。保護者は子どもや家庭の実態を話さないことが多い。保護者から学校に相談等がある場合は、登校できるようになるケースもある。

【加藤町長】

その他、意見等はあるか。

全委員意見なし。

本日の議事を終了する。